

ツル飛来地 鹿児島出水市の中学生

阿寒中生と活動発表 羽数調査法や生態紹介

北海道新聞（夕刊）

2018年（平成30年）8月27日（月曜日）

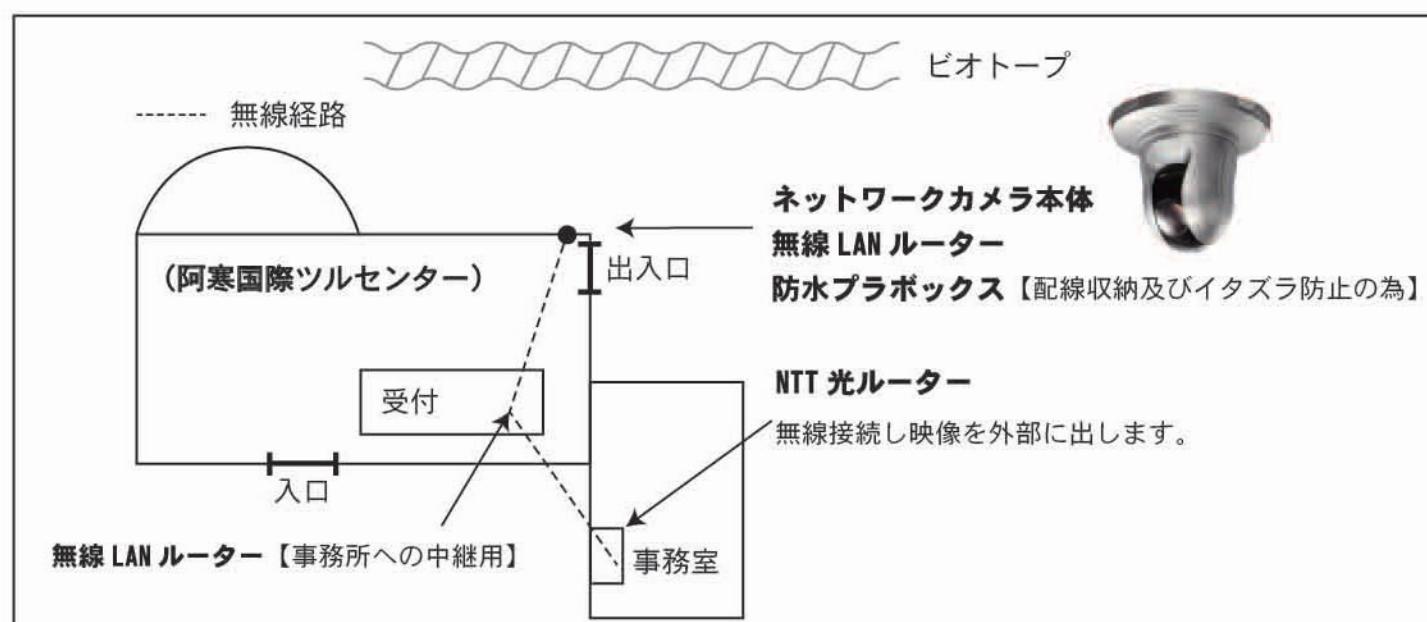


市立鶴莊学園と高尾野中の生徒たちが訪れたのは、出水市立鶴莊学園の「ツルクラブ」の部員20人。行は21日に釧路入りし、市立阿寒中を訪れ、同校の生徒会組織「鶴特別委員会」の生徒と交流した。（長堀笙乃）

阿寒中3年で、鶴特別委員会委員長を務める林直樹さん（15）は「ツルの生態や家族構成などを詳しく調べていて、すごいと思った。今後の活動に生かしたい」と話した。阿寒中3年で、鶴特別委員会委員長を務める林直樹さんは「ツルが飛来していくように、ツルが過ごしやすい街にしていきたい」と力を入れた。

ライブカメラ増設します

ライブカメラでビオトープ側の鶴を見せてほしいと要望があり、役員会議で話し合い、カメラを設置することになりました。これから工事を行います。1月頃には見えるようになる予定です。現在のライブカメラは第1チャンネル（観察センターからの映像）でそのまま見ることができます。ビオトープ側の映像が見られるのは第2チャンネルの予定です。



鶴だより

釧路市動物園 ふれあい主幹
松本 文雄



秋のタンチョウ

11月に入り、日毎に寒さが増してきました。タンチョウも少しづつ繁殖地から移動を始めているようです。とはいっても阿寒の給餌場には、まだ数羽（おそらく周辺にずっと滞在している個体）しか見られません。環境省の給餌事業は11月から開始ですが、まだほとんどコーンは撒いていません。給餌場からやや離れた畑などには、多い時には40羽ほど集まるもありますが、まだ、あちこちに移動を続けているよう、定常的に留まってはいません。

給餌が11月から始まっていることからもわかるように、以前は10月下旬から徐々に集まり始めています。近年、集まるのが遅くなっています。理由ははっきりしませんが、いくつかの可能性を考えられます。ひとつは暖冬によるものです。以前より寒くなるのが遅くなっているので（11月4日は20度まで気温が上がりました）、繁殖地を離れるのが遅くなっているかもしれません。

また、環境の変化も影響しているかもしれません。釧路・根室地方は酪農を中心とした牧草ですが、牧草以外の穀物系飼料（濃厚飼料と呼ばれてます）も、乳質や乳量をあげるために与えられています。その中心となっているのがトウモロコシです。トウモロコシと言っても私たちが食べている

スイートコーンとは異なりデントコーンと呼ばれるものです。以前は輸入される飼料が多かったのですが、農家が自ら栽培することもあり、近年は栽培面積が広がっています。特に、何軒かの農家が協力して会社を作り、大規模にデントコーンの作付けを行うことも多くなりました。そのため、この時期にはあちらこちらにデントコーン畑の刈跡があります。そこには

デントコーンの粒や土中の虫など、タンチョウのエサになるものがたくさんあります。このコーンの作付面積が拡大したことで、食べる場所が増え、あちこちの畑でエサを食べているため、給餌場に来るのが遅くなのではないかと思います。このように人の様々な活動がタンチョウの生活にも影響を与えています。

これからさらに寒くなり、地面が凍り、雪が降るようになれば、食べるものも無くなってしまって給餌場に集まつくると思います。以前にもお伝えしたように、環境省はタンチョウがより広い地域に分散するように、給餌場の給餌量を減らす事業に取り組んでいます。タンチョウが給餌場以外で食べ物を見つけて冬を越していくければよいのですが、どうなっていくのかはわかりません。タンチョウ達の変化を注意深く見守っていきたいと思います。

